

令和2年度SDGsチャレンジサポートプロジェクト
第1学年ワークショップ（マイクロプレゼンテーション）

（概要）

令和2年11月18日および19日の2日間、筑波大学の大学生等のべ18名をゲストティーチャーとして招き、第1学年の探求学習ワークショップを実施しました。2021年1月30日開催予定の探究学習発表会（SDGsチャレンジフォーラム）でのポスターセッションに向け、大学生からの助言をもとに研究成果のブラッシュアップを図ります。

記

- 1 目的 SDGsチャレンジフォーラムにおけるポスターセッションで、効果的な発表ができるようになることを目指す。
- 2 期日 令和2年11月18日（水）10:45～15:50
11月19日（木）10:45～15:50
- 3 場所 土浦一高 視聴覚室
- 4 対象 第1学年生徒320名
- 5 助言者 筑波大学の大学生・大学院生、留学生および旧職員等 のべ18名

6 内容

2021年1月30日（土）開催予定の探究学習発表会（SDGsチャレンジフォーラム）におけるポスターセッションに向け、筑波大学の大学生、大学院生、留学生、旧職員等のべ18名をゲストティーチャーとして招き、客観的な立場から助言を頂きました。

第1学年の生徒たちは4人一組のグループを編成し、それぞれに設定した独自の研究テーマに基づいて、夏季休業期間中にアンケート調査や現地調査等を行ってきました。今回はそれらの調査結果を分析し、SDGsの諸問題解決の提案について、図表を用いながらスケッチブックにまとめました。

ワークショップでは各班に助言者の大学生らをそれぞれ1人ずつ配置し、簡単な自己紹介の後、まず高校生側からプレゼンテーションを行い、次に大学生側から感想と助言を頂きました。大学生から学術的な観点に基づいた適切な助言を頂き、研究テーマがSDGsの視点と関わりがあるかどうかや、調査したデータが適切に検証されているかどうかについて、細かくチェックして頂くことができました。

高校生と比較的年齢の近い大学生とのワークショップをとおして、生徒たちは新たな視

点から SDG s の問題点を見つめ直し、1月の発表会に向けて今後の研究活動の目標を明確にする良い機会となりました。

7 参加した生徒の感想（一部抜粋）

- ・探究したいことを明確にし、私たちが何をを目指しているかを考えることが大切だと教えて頂いた。また、これからの課題として自分たちで考えたことをさらに深めていくことが重要であると思った。
- ・自分たちでやっているだけでは気づかないところなど、大学生の方達の率直な意見を聞けてとても参考になった。
- ・大学生の方からの意見を聞く事が出来たことで、これからの活動にどんなことを意識して行えば良いか、自分たちの班に足りないものは何かが明確になった。
- ・研究の内容だけでなく、発表の仕方やグラフの使い方など細かいところまで教えてくれたのでとてもありがたかった。何より私たちにとても優しく対応してくれたのでリラックスして私たちが不安に思っていることを聞けたのでとても役に立った。
- ・自分たちでは気づけなかったであろう、角度を変えたアドバイスや、甘さを指摘頂いたことで、いかに、自分たちの視野が狭くなっていたかを痛感した。
- ・今回の中間発表では、客観的な意見を取り入れることで、この先のビジョンを掴むことが出来た。資料の準備で戸惑うこともあったが、褒めて頂けたので今後の活動も順調に進めて行きたい。
- ・改善点の指摘のみではなく、思いつかなかった視点も提示して頂き、研究の幅が広がった。

7 マイクロプレゼンテーションの様子



マイクロプレゼンテーションの様子



生徒のプレゼンテーションに対して助言を行う大学生

